

横浜災害ボランティアネットワーク会議

令和元年度 第4回運営委員会について報告します。

日 時	令和元年7月22日(月) 18:30~20:30
会 場	横浜市健康福祉総合センター 8階 8AB会議室
参加者	運営委員：12名 事務局：3名

代表あいさつ：

議題1 令和元年度総会について（振り返り）（資料1）

資料1に基づいて事務局より説明

8月1日を目途にHPに掲載予定。

議題2 本日の実行委員会について（資料2）

資料2に基づいて本日の実行委員会で決めていただきたいこと等、事務局より説明。

事業計画に沿って実行委員会をすすめていく流れとなる。

【実行委員会】※委員会に分かれて議論

(1) 研修班 (2) 市域連絡会班 (3) 区災ボラ支援班 (4) 情報・広報班

議題3 HUG研修の依頼について

HUG研修の講師依頼について、講師の調整をした。謝金はなしでの対応となる。

(意見)

- ・防災士会として、先日横浜ラポールの職員向けに避難所運営の注意点も含め、HUG研修をした。新しく作成検討されているHUGでは、障害のある方の内容も含まれている。

(決まったこと)

乾運営委員が対応となる。詳しい内容についてはこれから別途調整をする。

議題4 各実行委員会からの報告

(情報・広報班)

- ・代表という名前ではなく、班長に宇田川運営委員、副班長は特に設けないこととなった。
- ・記録司会は班メンバーで持ち回りとする。
- ・目的：内向きには情報共有、外向きには市・区の情報を発信していくことを目的とした。媒体は広報紙、WEB上のHPなどを検討。
- ・現在のHPからリンクを貼り、新たな広報チームのHPをつくる。会員紹介、活動紹介、各区やブロックのイベントやアーカイブをのせて共有できたらという意見がでた。また、リアルタイムな情報としてFacebookを使いながら情報提供いきたい。ブログもコストが低いため念頭におきながら考えていく。
- ・広報紙は8月発行の紙面案を検討した。また別途委員会をしながら8月発行を目指す。

(市域連絡会班)

- ・受け身の団体も多く、自分たちが災害時に何ができるか掘り起こす必要がある、という話になったため、市域の役割を考え、ネットワークづくりを目指していく。
- ・市災ボラ支援センターは情報の提供が強みとなっていくことが考えられるため、各団体の強みを研修やヒアリングをとおして把握し、できることをリスト化して情報をもっておく。年に1度シミュレーションを行ってはどうか、という意見がでた。
- ・各団体が単独で行動するのではなく、ネットワークとして協働して動き、18区のサポートをしていけたらよいのでは、という意見が出た。

(区災ボラ連携・支援班)

- ・災ボラネットワーク未設立の区への応援をしていく。ネットワークがない区へ、なにが課題でネットワークがないのか、市災ボラとして何がお手伝いできるかをヒアリングしていく方向となった。
- ・現在災ボラネットワークがある区へは、ブロックを超えた連携ができるとよい、という話となった。隣接区との連携など、各区必要に応じた広域化を目指していく。そのために、各区の活動の情報交換をしていく。広報班とも連携して、区の活動も掲載を検討したい。

【諮る案件】

(情報・広報班)

- ・情報交換ができるツールをつくっていかないと情報も入ってこないため、各班・役員・事務局のメーリスと、会員のメーリスをつくりたい。
- ・次回の広報紙に各班の報告を掲載したいため、400字程度で原稿をいただきたい。代表には、市災ボラと市災ボラ支援センターの役割と機能、市域団体に期待すること等書いていただきたい。その他は金沢区災ボラ、横浜市福祉サービス協会、神奈川新聞厚生文化事業団へ記事の依頼をしたい。

(市域連絡会班)

- ・事業計画では9月に検討会開催予定となっているが、準備をしてから行いたため、時期を変更したい。

(区災ボラ連携・支援班)

- ・広報紙で各区でのシミュレーションの日程を掲載してほしい。
- ・緑区へのアプローチは、いったん市社協から区社協へ状況をヒアリングしてほしい。

【確認事項】 今後の実行委員会のスケジュールについて

- ・次回運営委員会 9月12日
- ・次回実行委員会は10月だが、各班適宜集まってもよいことを確認した。